

研究所だより

編集・発行

千葉県長生地方教育研究所

茂原市東郷2300-1

TEL 0475 (24) 9721・FAX 0475 (23) 4820

H P <http://www.choseikaikan.or.jp/>メール kenkyujo@beach.ocn.ne.jp

「生きる力の育成 ～日々の授業を大切に～」

千葉県教育庁東上総教育事務所

所長 栗 芝 博

1 はじめに

この4月からお世話になっております栗芝 博と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

昨年度末からの新型コロナウイルス感染拡大により、いつもの年とは違う令和2年度となりました。各学校におかれましては、「先の見えない不安」と「前例のない日々への対応」で大変な毎日をお過ごしのことと思います。そうした状況下ではありますが、「研究所だより」への寄稿とのご依頼をいただきましたので、今年度東上総教育事務所指導室の重点目標「生きる力の育成」に絡めて、日々の授業について、日頃感じていることに触れてみたいと思います。

2 ある小学校教諭の週案

月曜日に体育で最後の鉄棒運動を行った。本当は先週で鉄棒運動は最後だったが、あと少しで逆上がりや他の技ができそうな児童が多かったので急ぎょ行った。かなり暑かったが、子どもたちは何度も技の練習を頑張っていた。最後の発表では、練習で一度も逆上がりができなかった子が成功することができた。子どもの力はすごい！また、無理だと言っていた子も、何回か練習してできるようになると休み時間も練習していた。

まずは「やってみよう！」の挑戦の気持ちが学級に広がっている。これから子どもたちのやる気を引き出し、成功体験を味わうことで自信をつけさせたい。

皆さんはこの週案を読んで、どんなことを感じられるでしょうか。私はまず、この先生の子どもたちと真摯に向き合う姿勢と子どもたちの状況に合わせて柔軟に授業を行っているところに感じました。また、何よりも「子どもの力はすごい！」と子どもの成長を自分のことのように一緒に喜んで感動しているところが素晴らしいと感じました。

3 みんな成長したい

置かれている状況や現時点での発達段階に違いはあっても、子どもたちはみんな心の中で、今の自分より少しでも成長したいと思っています。

ちょっとだけ子どもの頃にタイムスリップしてみてください。初めて逆上がりできた時。初めて自転車に乗れた時。今までできなかったことができるようになった時に感じる、あの内側から込み上げてくるような何とも言えない嬉しさ。

学校生活の中で、そして1時間の授業の中で、そんな経験ができたら、子どもたちにとっては楽しくて最高の時間となることでしょう。週案の中の「練習で一度も逆上がりできなかった子」ができるようになった時の嬉しい気持ちは、きっと想像に難くないことと思います。

教育は（そして1時間の授業も）意図的・計画的なものです。力のある先生の授業というのは、子どもたちの実態

を踏まえて、子どもたちが成功体験や「できた、わかった」という感覚を味わえるように仕組みられたものであると思います。

4 子どもの心に火をつける

もうひとつ、私がこの週案ですごいと感じたのは、「また、無理だと言っていた子も、何回か練習してできるようになると休み時間も練習していた。」というところです。

勉強でも運動でも、子どもたちが本当に伸びる（成長する）時というのは、「そのことが好きで夢中になってやっている時」と「もう後がない状況で追い込まれた時」が多いように思います。このクラスの子どもたちは、逆上がりができるようになったことが嬉しくて、休み時間も自分から練習を始めました。まさに「そのことが好きで夢中になってやっている」状態です。

アメリカの作家ウィリアム・アーサー・ウォードのこんな言葉があります。

良い先生は、子どもに分かるように解説する。

(The good teacher explains.)

さらに優れた先生は、自らやってみせる。

(The superior teacher demonstrates.)

そして偉大な先生は、子どもの心に火をつける。

(The great teacher inspires.)

洋の東西を問わず、偉大な先生とは子どもをやる気にさせる先生のことなのかもしれません。

5 先生方の心は元気ですか

以前の職場で多くの学校を訪問させて頂いた折、「これから授業で教室に入ろうとする時、先生方の心はどんな状態ですか」とよく問いかけをさせて頂きました。「今日の授業ではこんなことをしよう」と、いい意味で「攻めの心」の状態なのか。それとも心が消極的で受け身になってしまっているのか。子どもたちにしてみれば、先生の気持ちが乗っていて意図的に仕掛けてくる授業の方が楽しいに決まっています。そして、言われ尽くされたことですが「攻めの心」を作るために大切なのは、やはり「授業準備」です。子どもたちの顔を思い浮かべながら、授業の流れを計画し準備をすれば、教室に入る時には自然と心が攻めに転じます。

6 最後に、若い先生方へ

ベテランの先生のように指導や授業がうまくできずに悩んでいる方は多いかと思います。しかし、それは誰もが通ってきた道です。経験と技術に裏打ちされたベテランの先生の授業は確かに素晴らしいものです。ですが、若い先生方には若さならではの良さもあります。加えて、入念に準備をし、わくわくした攻めの心で授業に臨めば、多少技術が劣っていたとしても、子どもたちにとって大いに魅力のある授業となりえます。「今日この1時間の授業」を大切に、多くの経験を積み重ねていってください。



キャリアパスポートを活用した学びに向かう力への涵養

千葉県教育庁教育振興部学習指導課
指導主事 佐藤 衛

1 はじめに

令和2年4月より、全国すべての小学校、中学校、高等学校において、「キャリア・パスポート」の作成と活用が始まりました。

今後到来することが予想される、複雑で予測困難な社会に対応するため、児童生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を身に付けていくためにも、「キャリア教育」が重要視されています。そうした流れの中で、「キャリア・パスポート」の活用により、主体的に学びに向かう力を育成し、自己のキャリア形成に生かすことが可能になると期待されています。

では、主体的に学びに向かう力を育むために、「キャリア・パスポート」をどう活用すればよいのでしょうか。このことについて、説明したいと思います。

2 「キャリア・パスポート」導入の背景

これまでのキャリア教育は、就業体験や進路指導といった、狭いものとして捉えられがちで、児童生徒の学びが自身の生活や将来につながっていないのではないか、という指摘がされていました。

このような指摘を受け、キャリア教育においては、小学校から高等学校までの教育活動全体の中で、「基礎的・汎用的能力」を育むことが必要であり、小学校段階から、特別活動の中にキャリア教育の視点を入れることが重要なのではないか、という議論がなされました。

そこで、平成28年12月の中央教育審議会特別活動ワーキンググループにおいて、主体的に学びに向かう力を育て、自己のキャリア形成に生かすことにつながるために、特別活動を中心としつつ、各教科等との往還を図ることで学びを蓄積し、社会や将来につなぎ、必要に応じて振り返ることができる、ポートフォリオ的な教材を作成し、活用することが提案されました。

3 「キャリア・パスポート」の定義・目的

「キャリア・パスポート」とは、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫された、ポートフォリオ的な教材のことです。

これまで、各学校において、様々なポートフォリオ資料が作成され、児童生徒の様々な取組が記録されています。これらの既存のプリント、ワークシートを、学ぶ意欲を持続させるものになるよう工夫し、小・中・高等学校と、学校段階を越えて活用できるように、意図的に編集し蓄積し、引き継いでいくことが必要となってきます。

4 「キャリア・パスポート」活用のポイント

文部科学省では、平成31年3月29日付け事務連絡で、「キャリア・パスポート」の様式を例示しました。ここでは、例示した資料をそのまま使用するの

はなく、各地域・学校の実態に応じて、児童生徒の主体的な学びにつなげるよう、柔軟にカスタマイズすることが求められています。

そこで、「キャリア・パスポート」を児童生徒の学びに向かう力の涵養につなげるため、どのような配慮が必要か、3点に絞って説明します。

(1) 中・長期的な見通しを明確にする

これまでのキャリア教育では、学校ごとに特徴ある取組が行われ、素晴らしいポートフォリオが作成されてきましたが、その多くは1年間だけを振り返るものとなっており、学年・学校種を超えて過去の学びが将来につながっていない状況にありました。

求められているのは、「キャリア・パスポート」を作成することで、入学から卒業まで、そして次の段階へ、といった、中・長期的な見通しを持った振り返りを行い、将来への展望を図り、学ぶ意欲を高めることです。次の段階にどうつなげていくか、といった視点に立ったポートフォリオの見直しが必要となります。

(2) 家庭・地域にも目を向ける

「キャリア・パスポート」で扱うのは、「学校生活全体及び家庭、地域における学びを含む内容」とされています。つまり、教科・科目のみ、学校行事のみの自己評価とならないよう、①教科学習 ②教科外活動（学校行事、児童会・生徒会活動、クラブ活動等）③学校外の活動（地域での活動、家庭内での取組等）の3つの視点で振り返り、特別活動を要としつつ、各教科・科目と学びが往還していることを児童生徒が認識できるよう工夫します。

(3) 大人が対話的に関わる

児童生徒が「キャリア・パスポート」に取り組むに当たって、教師（大人）の関わりが重要となります。児童生徒に自己有用感を持たせ、自己変容の自覚に結びつけられるような対話の場を設けたいです。上述のとおり、「キャリア・パスポート」は、学校外の活動も扱いますので、教師だけでなく、地域住民の方にも児童生徒と対話的に関わっていただけるような配慮が必要です。そのためには、平成31年3月29日付け事務連絡で例示された様式のように、「他者からのメッセージ」の欄を設ける等の工夫が求められます。

5 おわりに

「キャリア・パスポート」に取り組むに当たって大切なことは、これから目新しいことをすることではなく、これまでの各学校での蓄積を大切にしながら、ひと工夫を加えることです。その際、大切にしたいのは、「つなぐ」という意識です。次の学年へ、次の学校種へ、児童生徒の学びをどうつなぎ、学ぶ意欲をどうつなげていくか、考えたいです。

児童生徒が主体的に学びに向かうことができるよう、学校種を越え、そして地域全体で育てるという視点で、「キャリア・パスポート」を活用していただきたいです。

長生郡・茂原市小・中学校「研究主題と研究仮説」

長生郡・茂原市小中学校の「研究主題と研究仮説」について紹介いたします。各学校の研究に役立てていただければと思います。

学校名	研究主題	研究仮説・目標・視点	教科・領域
東郷小	人間性豊かな児童の育成 ～生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる児童の姿を目指して～	音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら思考し判断する一連の過程を大切にした指導の工夫を行えば、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる児童を育成することができるであろう。	音楽科
豊田小	自己の生き方を見つめ、主体的に判断し、よりよく生きる児童の育成 ～子どもが自ら考え、議論する道徳の授業づくりを目指して～	1 児童の思考を揺さぶる学習課題や発問を工夫することで、主体的に考え、自己の生き方について見つめ直し、考えを深めることができるだろう。 2 学び合う学習活動を通して多面的・多角的に考えを深めることで、幅広い視野から判断し、よりよく生きるための思考力を養うことができるだろう。	道徳科
二宮小	一人一人が輝き、「考え、学び認め合う」力を身につけた児童の育成 ～「特別の教科 道徳」を通して～	「特別の教科 道徳」において、以下の点を重視しながら題材を構成し、それぞれの考えを認め合う場を工夫すれば、進んで自分の考えを持ち、共に学び認め合う力を高めていくことができるであろう。 (1) 工夫したワークシートを活用した個人思考の場の設定 (2) 学習形態を工夫した集団解決の場の設定	道徳科
茂原小	自ら考え判断し、表現できる児童の育成 ～読む力を育む国語科学習の在り方～	1 児童が主体的に取り組める学習過程を設定し言語活動を工夫すれば、目的意識をもって文章や言葉と関わり、読む力が高まるであろう。 2 児童の発達段階を踏まえた交流の仕方を提示し互いに学び合う場面を設ければ、自分の思いや考えを伝えたり、他者の考えを理解したりできるであろう。	国語科
西小	主体的に探究する児童を育てる学習指導の在り方 ～「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを活用した授業実践～	「見方・考え方」を働かせた授業展開を実践すれば、主体的に学びを探究し、思考し表現する力を高めることができるであろう。	国語科 算数科
五郷小	どの子にも「わかる」「できる」楽しさを味わわせる学習指導 ～統合的・発展的な考え方を育てる「まとめ」「振り返り」の工夫～	「まとめ」「振り返り」段階において、統合的・発展的な考え方を育てる手立てを工夫すれば、既習事項と関連付けて学習内容を捉え直したり、進んで新たな学習や生活に活用したりして「わかる」「できる」楽しさを味わうことができるであろう。	算数科
鶴枝小	よりよい食習慣を身に付けるための指導の工夫 ～食への理解を深め、主体的に選ぶ力を育む～	食育の指導において、児童一人一人が食への知識・理解を深め、主体的に選ぶ力を育むことにより、健康な体を作るための食習慣を身に付けることができるであろう。	生活科 家庭科 体育科 学級活動
萩原小	コミュニケーション能力を教科等横断的に育成する授業づくり ～子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて～	1 「資質・能力の三つの柱」に沿って整理した「コミュニケーション能力を発揮している児童の姿」を、目標設定、実践、評価、改善の場面で、どのように活用するか。 2 授業において、どのような「手立て」を用いて「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行い、コミュニケーション能力の育成を図るか。	全教科

学校名	研究主題	研究仮説・目標・視点	教科・領域
中の島小	自ら考え、主体的に問題解決に取り組む子どもの育成 ～算数科における教師の働きかけを中心に～	教師の働きかけを工夫すれば、数学的な見方、考え方を働かせ、主体的に問題解決に取り組むことができるであろう。	算数科
本納小	効果的な学校間連携のための、組織的な取り組みのあり方 ～9年間を見通した学習環境づくり～	児童や教職員の教育活動を円滑に進めるために計画的・効果的な組織づくりをし、9年間を見通した学習指導や学習環境づくりのあり方を追求する。	全教科
新治小	自分の考えを持ち、分かりやすく伝える児童の育成 ～学校間連携を取り入れて～	1 自分の考えを持ち、分かりやすく相手と伝え合い、振り返る活動を取り入れた指導法 2 学校間連携による意図的な交流の場の設定	全教科
豊岡小	自ら学び考え、表現する児童の育成 ～読む力を育む国語科の学習を通して～	単元で児童につけたい力を明確にし、言語活動を工夫すれば、読む力が高まるだろう。	国語科
東部小	思考力・表現力の育成を目指す授業づくり ～算数科の指導の工夫を通して～	「自力解決」の段階において、具体的な解決方法を提示すれば、自らの考えを表現する力が育ち、解決できた喜びや達成感を味わうことができるであろう。	算数科
緑ヶ丘小	主体的に表現しようとする児童の育成 ～外国語活動・外国語科の学習を通して～	児童が興味・関心をもつことができる体験的な言語活動や教材を、発達の段階に応じて工夫すれば、主体的に表現しようとする児童が育つであろう。	外国語活動 外国語科
東浪見小	共に学び、よりよい生き方を探究する児童の育成 ～考え・議論する道徳の授業改善を通して～	1 児童が個人の意見を表出し、互いの考えを共有するための工夫を行えば、一方的な見方から、多面的・多角的な見方に発展することができるであろう。 2 自己を見つめ直す機会を意図的に設け、終末の振り返りの方法を工夫すれば、児童はよりよい生き方を探究することができるであろう。	道徳科
一宮小	思考力・判断力・表現力を高める児童の育成 ～「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を活用して～	1 児童一人一人の思考力・判断力・表現力を高めるために言語環境を整備し、教科の特性に応じた言語活動を充実させる。 2 「『思考し、表現する力』を高める実践モデルプログラム」を活用し、思考の形成や表現力向上をめざす学習活動を展開する。	国語科 図画工作科
白潟小	自ら考え、表現できる子どもの育成 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、話す聞く力を高める指導の工夫～	自分の思いや考えを伝えたいような手立てを工夫すれば、お互いの思いや考えを交流することができるであろう。	全領域
南白亀小	よく考え、自分の考えを表現できる児童の育成 ～主体的な学びを促す授業づくりを通して～	1 学ぶことに興味や関心を持つことができるような課題設定のしかたや、学習意欲を高めるための課題提示の工夫を意図的に取り入れていくことで、粘り強く考える力がつくと共に、解決する喜びを味わうことができるだろう。 2 学習活動を自ら振り返り意味づけたり、身に付いた資質・能力を自覚できるような評価の工夫を取り入れたりとすることで、自ら課題を見つけ意欲的に学習する子が育つであろう。 3 習得したことを生かして思考できるような手立てを工夫することで、児童が自らより良い解決の仕方を見つけ、自分なりに表現することができるであろう。	全教科

学校名	研究主題	研究仮説・目標・視点	教科・領域
関 小	一人一人が輝き、「わかる」「できる」喜びを味わえる授業づくり ～思考力・表現力を育む学習活動の工夫を通して～	1 基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る手立てや個に応じた支援方法を工夫していけば、「わかる」「できる」喜びを一人一人に味わわせることができるだろう。 2 学び合う場や比較検討場面を工夫すれば、自分の考えを基に他者と関わり合いながら、思考力・表現力を育てていくことができるだろう。	全 教 科
長 柄 小	基礎的・基本的な知識・技能を身に付けた児童の育成 ～できる・わかる「楽しさ」、伝わる「喜び」を実感できる算数科の授業を通して～	1 児童が主体的に活動できる素材や教材・教具を工夫して取り入れたり、伝え合い・振り返る活動を意図的に設定したりすれば、学習意欲が高まるであろう。 2 本時のめあてにかかわる既習事項を振り返り問題解決に取り組めば、学習内容が分かり、基礎的・基本的な知識・理解が身に付くであろう。	算 数 科
日 吉 小	心豊かでたくましく生きる児童の育成 ～「特別の教科 道徳」の指導方法の在り方を通して～	1 「考え、議論する道徳」にするための多様で効果的な指導方法をさらに工夫すれば、道徳性が養われ、子供たちが社会を生き抜くために必要な思考力や判断力などの力を身に付けさせることができるであろう。 2 「特別の教科 道徳」における評価の方法を理解して評価していけば、教師は個々の児童の道徳性に係る心の成長に気づき、見取ることができるであろう。	道 徳 科
長 南 小	主体的・対話的に児童が取り組む体育学習のあり方 ～長南モデル「できる・わかる・かかわる」の実践をとおして～	1 自分の課題に合った練習の場を設定し活用することで、わかる・できる力が高まり、運動を楽しむ児童を育成することができるだろう。 2 仲間・もの・場所とのかかわりを通して、対話的な体育活動をすることで、学び合う力が身に付き、運動を楽しむ児童を育成することができるだろう。	体 育 科
睦 沢 小	園小中一貫教育におけるコミュニケーション能力を育てる学習の在り方 ～国語科を中心とした系統的・横断的な指導を通して～	1 国語科の「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」の指導を中心に、系統的・教科横断的な指導を行えば、友達の考えを理解し自分の考えを伝えられるであろう。 2 外国語科の「話すこと・聞くこと」の指導の中で、簡単な語句や表現を用いた身近なコミュニケーション活動を行う場面を設ければ、自分の考えや気持ちを伝え合うことができるであろう。	国 語 科 外 国 語 科 総 合 的 な 学 習 の 時 間
一 松 小	生きる力を支える確かな学力を身に付けた児童の育成 ～算数科における基礎的・基本的な内容の習得と活用を通して～	基礎的・基本的な内容の習得を図る手立てや個に応じた支援方法を工夫していけば、確かな学力を身に付け、活用することができるであろう。	算 数 科
八 積 小	自分を大切に、他人を大切に する児童を育てる道徳教育 ～「考え、議論する道徳」の授業の指導方法の工夫を通して～	1 問題意識が明確になるような発問を工夫すれば、児童一人一人が自己をみつめ、心の葛藤を自分事として考え、判断する心が育つだろう。 2 自分の考えや立場を表現する場を設定し、話し合い活動の工夫をすれば、自分とは異なる意見を持つ他者の多様な見方や価値観に気づき、互いを認め尊重しあう心が育つだろう。	道 徳 科
高 根 小	自ら考え、表現する児童の育成 ～国語科における言語活動を工夫した授業作りを通して～	1 単元で児童に付けたい力にふさわしい言語活動を工夫して位置付ければ、読むことや書くことの目的が明確になり、思考力表現力を高めることができるであろう。 2 伝え合う良さが実感できる指導を工夫すれば、児童一人一人が課題の解決に向けて、意欲的に取り組むことができるであろう。	国 語 科

学校名	研究主題	研究仮説・目標・視点	教科・領域
東 中	自ら学び、確かな学力を身につけた生徒の育成 ～「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業の改善～	基礎的・基本的な知識及び技能を習得する場面と、それを活用し思考・判断・表現する場面を効果的に設定し、学ぶ楽しさを実感できるわかる授業を実践すれば、自ら学び、確かな学力を身につけた生徒を育成することができるであろう。	全 教 科
富士見中	確かな学びを育む授業のあり方 ～指導方法の工夫改善を通して～	1 単元または毎時間の授業において、見通しをもたせることで、生徒の学ぶ意欲が高まり、主体的に学ぶ態度が育つであろう。 2 学習課題を工夫し、授業の中で教え合い、意見を出し合う場面を意欲的に設定することで、お互いを高め合い、深い学びへとつながるであろう。	全 教 科 全 領 域
茂原中	豊かな心と確かな学力を身に付けた生徒の育成 ～授業力の向上を通して～	「授業づくりのグランドデザイン」を取り入れた学習の充実、授業力の向上を図ることで、自己実現に向けた将来の夢をもち、社会で生き抜くための判断力や人間関係調整力を育み、「豊かな心」と「確かな学力」を身に付けた生徒を育成できるであろう。	全 教 科 全 領 域
南 中	自ら学ぶ生徒の育成 ～「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善～	各教科の特性を生かし、生徒の実際の状況を踏まえながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、自ら学ぶ生徒の育成につながるであろう。	全 教 科 全 領 域
本納中	未来に向けた学びの創造 ～新しい時代を生き抜くための資質・能力の向上に向けた取り組みを通して～	1 安心して自分の考えや意見を発信できる学習集団づくりを行えば、ペアやグループでの学習活動が活性化し、共に考え、伝え合い、表現し合う生徒の育成ができるであろう。 2 学習の過程で、自分の考えを持ち、表現することや伝え合ったり話し合ったりする中で、実験・調査や思考・判断などの学習の場を意識し、学んだ知識・技能を生かした授業づくりを行えば、生徒はお互いにその考えを深め合うことができるであろう。 3 評価の在り方を工夫し、「学びの結果としての学習評価」(Evaluation)に加えて、「学習過程の中で学び手がどのように向上したかを見取り、支援する評価」(Assessment)を評価の視点に加えることで、より一人一人の生徒に寄り添ったカリキュラムマネジメントを行うことができるであろう。	全 教 科
早野中	主体的な判断力を養う道徳科を目指して ～他者との対話を通して～	1 導入・展開時で効果的な教材の活用をすることで、生徒が興味・関心を持ち、自ら学びたいという課題意識や課題追求への意欲を高めることができるであろう。 2 ねらいに迫る適切な発問を工夫することで、生徒が道徳的価値について多面的・多角的に考えることができ、議論が深まるであろう。 3 道徳ノートを工夫し、積み重ねることで生徒のよい点や進歩の状況を把握でき、学習の成果につながるであろう。	道 徳 科
一宮中	豊かな心と健やかな体の育成の推進・充実を図るための教育活動の工夫 ～オリンピック・パラリンピック教育・福祉教育を通して～	1 オリンピック・パラリンピック教育を推進し、教育活動を工夫することにより、豊かな心と健やかな体の育成を推進し充実させることができるであろう。 2 国際教育を位置づけ、他国の文化や日本の良さを知ったり、社会貢献のためのプロジェクトやボランティアに参加したりすることにより、多様性を尊重する豊かな心、ルールやマナーを守り、社会に貢献しようとする実践的な力を育成することができるであろう。	全 教 科 全 領 域

学校名	研究主題	研究仮説・目標・視点	教科・領域
白子中	自己実現に向け、自ら学び、 思考し、表現できる生徒の育成	1 課題を解決する学びの場の工夫・改善をすれば、主体的に 学ぶ態度が育つであろう。 2 学習課題を明確にし、学習活動に適した言語活動や体験活 動を学びの場に取り入れれば、思考力・表現力が高まるだろ う。	全 教 科 全 領 域
長柄中	学ぶ喜びを感じ、主体的に学 習に取り組む生徒の育成 ～指導法の工夫・改善を通して～	1 話し合い活動やグループで実験・調査に取り組み、発表す る場を充実させれば生徒が考えを深め、問題解決能力や表現 力が身につくであろう。 2 魅力ある題材を精選したり、教材・教具・資料の効果的な 活用方法を工夫したりすれば、生徒は興味・関心をもち、学 習意欲が向上するであろう。 3 学習内容の見通しや振り返りの場面において、自分の言葉 で書く活動を工夫すれば主体的に学習に取り組むようになる であろう。	全 教 科
睦沢中	「考え、議論する道徳」の実 現を目指した授業づくり ～話し合いを充実させ、多面的・ 多角的に考える授業実践を通 して～	1 道徳科の授業の中で、ねらいに迫る発問を設定すれば、生 徒一人一人が道徳的価値に根ざした問題について、自分との 関わりの中で捉えることができるであろう。 2 各教科において、小集団での話し合いの指導に重点をあて、 系統的・教科横断的な指導を行えば、相手を尊重しつつ、自 分の考えが受け入れられる表現ができるであろう。	道 徳 科
長生中	「確かな学力」を身に付けた 生徒の育成 ～「主体的・対話的で深い学び」 の視点に立った授業を目指し て～	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を進め ることにより、知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力 等をバランスよく育み、知識の質を更に高め、「確かな学力」 を身に付けた生徒を育成できるであろう。	全 教 科
長南中	豊かな心と確かな学力を身に つけた生徒の育成 ～振り返り学習を通して～	学習において振り返る場を工夫し、充実させれば、学習した ことが定着し、他教科とのつながりに気づけば、思考が広がっ たり、深まったりするだろう。	全 教 科

令和 2 年度長期研修生紹介

長期研修とは、学校教育実践上の諸課題に関する研究を行うとともに、諸研修を通して教育専門職としての資質能力を高め、千葉県教育の推進者及び指導的な立場の教員を育成することを目的としています。

今年度は、3名の先生方が長期研修生として大学等で研究を進めています。それぞれの先生方の研究主題をご紹介します。



☆理科☆

茂原市立緑ヶ丘小学校
重村 英伸

〈研究主題〉
生命を尊重する態度を育成する理科
教育
～一人一飼育活動を通して～



☆外国語科☆

茂原市立東郷小学校
矢代 朋美

〈研究主題〉
絵本を活用した効果的な指導法
～児童に発言させ、考えさせる読み聞
かせを用いた授業を通して～



☆理科☆

茂原市立東中学校
齊藤 亮平

〈研究主題〉
主体的・対話的で深い学びを実践す
るための教材開発
～動物の体のつくりと働きにおけるモ
デル作製～

令和元年度長期研修生 研究発表会について

例年、長期研修生の研究成果を地域に還元・共有するために研究発表会を開催してまいりましたが、今般の新型コロナウイルス感染症への対応として、中止とさせていただきます。

概要のみとはなりますが、昨年度の長期研修生の研究をご紹介します。詳しくお聞きになりたい方は、是非お問い合わせください。

☆社会科☆ 茂原市立富士見中学校 村上 健輔

〈研究主題〉

社会的事象を多面的・多角的に捉える力を育てる社会科学習の在り方

～地域素材「天然ガス」の教材開発を通して～

〈研究の概要〉

社会的事象を多面的・多角的に捉える力を育成するために、小学校4年生「住みよいくらしをつくる」の学習において、地域素材「天然ガス」の教材開発を行い、映像資料やゲストティーチャーを活用し実践を行った。その結果、各時間の振り返りやアンケートの変容、イメージマップ等の記述の中から、天然ガスのもつ多くの視点を理解し、それぞれの関わりについて自分の生活と比較したり関連付けたり姿が見られた。また、長生・茂原地域の様々な良さに気づき、愛着を深めることにもつながった。

☆音楽科☆ 茂原市立東郷小学校 志田 輝美

〈研究主題〉

ふるさとのよさを実感しながら郷土の音楽と主体的に関わる児童の育成を目指した指導の在り方

～郷土の芸能を総合的に捉えた教材開発を通して～

〈研究の概要〉

これからの学校教育では、諸外国の人々の生活や文化を尊重すると共に、我が国の文化や伝統に対する理解を深め、大切に育てる態度の育成が求められている。本研究では、郷土の音楽を社会的・文化的な文脈で総合的に捉えた学習過程の構成、鑑賞と音楽づくりを関連させた指導を軸とし、地域に伝わる獅子舞を総合的に捉えた教材開発を行った。その結果、児童が地域のよさを感じながら郷土の音楽に親しみ、主体的に関わることができるような指導法とその有効性を明らかにすることができた。

☆道徳科☆ 茂原市立本納小学校 佐藤 範子

〈研究主題〉

高学年における「相互理解、寛容」の心を育てる道徳教育プログラム

～あなたとわたし「ちがうけど同じ」をみつけよう～

〈研究の概要〉

「相互理解、寛容」の心を育てるための道徳教育プログラムを開発し、その効果を明らかにするために、実践を行った。複数の内容項目と様々な対象者（外国人、障害者、高齢者、友達）を組み合わせたり、道徳科と他教科や行事、体験活動の学習を組み合わせたりすることで、様々な人の立場や気持ちを考える力が向上し、「相互理解、寛容」やそれに関連する「親切、思いやり」「友情、信頼」等の内容項目の理解が深まった。また、学んだことを日常生活に生かそうとする意識も高まった。

☆特別支援教育☆ 茂原市立萩原小学校 鈴木 あやか

〈研究主題〉

適切な行動を増やし、問題行動を減少させる支援について

～ABC分析の考え方を取り入れたリーフレットの作成・活用を通して～

〈研究の概要〉

発達障害等の特別な教育的支援を必要とする児童の、適切な行動を増やし問題となる行動を減少させることを目的として実践研究を行った。その際、応用行動分析で用いられるABC分析の考えを取り入れた教員向けのリーフレットを作成・活用し、通常の学級2名、特別支援学級3名の児童を対象に実践的な検証を行った。その結果、個に応じた適切な支援の検討や支援が図られ、いずれの事例でも不適切な行動の減少と適切な行動の増加が見られた。

研究所の紹介

所長 松村 暁雄（茂原市立西小学校校長）



長生地方の教育課題を探究し、教育諸条件の改善充実のための資料を提供し、地域の教育振興に役立つ活動を運営の方針に掲げています。所員一同精一杯活動してまいりますので、ぜひご活用ください。

主事 中館 武優（茂原市立南中学校）



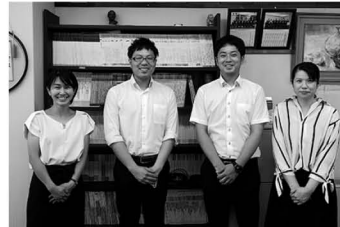
多くの研究紀要等のご寄贈をいただきましてありがとうございました。教育情報誌等は貸し出しも行っていきますので、是非気軽にご利用ください。

事前にご連絡いただければ、可能な限りの資料をご用意させていただきます。

調査部

〈研究主題〉

働き方改革に関する調査



佐々木有紀子
（茂原市立本納小学校）
大島 梓
（茂原市立茂原中学校）
大塚 宏幸
（一宮町立東浪見小学校）
渡邊 紘志
（茂原市立豊田小学校）

働き方改革に対する長生郡市小・中学校や全国を取組を調査して紹介します。今年度はアンケート調査を実施し、来年度に紀要としてまとめる予定です。

研修部

〈研究主題〉

教育課題の改善にむけた効果的な情報提供



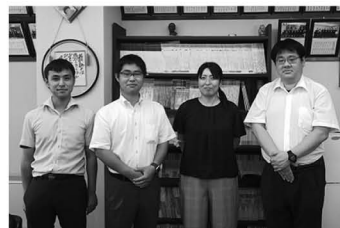
西谷 真澄
（睦沢町立睦沢中学校）
鈴木 公則
（茂原市立本納中学校）
岡澤 尚樹
（長柄町立長柄中学校）
佐藤 章雄
（茂原市立五郷小学校）

「研究所だより」を年3回発行し、教育実践や教育研究等の参考となる資料を紹介いたします。また、研究紀要発表会や長期研修生報告会などの研修会の運営を行っています。

情報部

〈研究主題〉

研究の深まりと校務の効率化を目指して



宇野 廣
（茂原市立西小学校）
片根 聡太
（長南町立長南小学校）
池田 進
（白子町立白子中学校）
森 好美
（長生村立八積小学校）

現場の教育研究、実践に役立つ教育資料の作成と紹介をします。また、各校の校内研究に関する資料を集め、研究所ホームページにデータベース化して掲載します。